

自己評価結果公表シート

令和6年度めぐみ白鳥こども園

1、園の教育目標

寺院より発祥した歴史的な基盤をもとに「あたたかい心の教育」を実践しています。それゆえに教育方針は「精神的には良寛上人に学び、その実践的技術は現代に学ぶ」を根底におき次のような「五つのちかい」により子どもたちの目標像を明らかにしています。

- 一、私たちは良き挨拶をする子どもになります
- 一、私たちは良きビジョンをもつ子どもになります
- 一、私たちは良く学ぶ子どもになります
- 一、私たちは良く感謝する子どもになります
- 一、私たちは良く奉仕する子どもになります

この「誓い」は仏教の「五正行」の教えをもとに考案し、子どもたち一人一人の生涯にわたる指針としても役立つものと考えています。

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 本園の上記の方針に沿って、園児の「幼児期に育ってほしい10の姿」を、園生活を通して相互に関連を持たせながらバランスよく総合的に養う。語の数が増える幼児期に絵本に楽しむこと、絵本のコーナーを充実「童話・童謡」に親しみを持つ。又古くから伝わる、こどもの日、七夕、お月見、ひな祭りなどの年中行事を園全体の「集い」とし、影絵、人形を使用し、子供たちに親しみながら興味を持たせる。三輪車を体育遊びに導入しアクティブラーニングを取り入れ、ルールを守ること、体を使って遊ぶことの楽しさを知り、体力向上を目指す。
- 幼児教育・保育の充実を目指す。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取 組 状 況
保育内容及び指導のあり方等を精査し、教職員間の共通理解をはかる	B	○ 保育内容を充実させるために毎週学年ごとにチーフを中心に話し合い保育の展開に役立てる。 ○ 日々の保育の延長上に「行事」（運動会・音楽会 etc）があること、経験することにより子ども一人一人が自信を持てるよう適切に個々に言葉をかける。 ○ 安全管理については各保育室、遊具の点検票を作成し行っている。防災意識を高めるため、避難訓練を毎月保育の中に取り入れている。 ○ 特別支援については一人一人個々により発達が違うので指導計画を立て時には、市の発達相談やキンダーカウンセラーを踏まえ、また保護者の意見も重視しながら個別支援計画を立てている。

		○ 食育については、園庭に四季折々の草花も育て、季節毎に野菜などを決めて栽培し給食で調理して貰う。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる	B	○ 絵画・制作では学年ごとに講師を招き、園内研修を充実に努める。発達段階に沿った「あそび」を学び、子ども達に還元する。 ○ 体育遊びは講師を招き、年間カリキュラムを作り行う。学期ごとに講師より研修を受けている。 ○ 外部研修に参加後はレポートを提出し、同時に保育に活かせるように考える。
保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る	C	○ バスキャッチ導入により保護者の要望である保健衛生情報、例えばインフルエンザ、麻疹、水疱瘡等を手軽に知らせることが出来ている。 ○ 保護者の要望(クレーム等)は真摯に受け止め、園全体で把握、素早く対処し、終了で職員に共通理解をしている。 ○ 園児の相談等は出来る限り保護者とコミュニケーションを取ることに努めている。
地域社会との連携	A	○ 園庭開放等を通して地域の人々と交流し、園の正門等で子育て支援情報など周知し地域の安心できる遊び場として開放している。 ○ 園正面の花などを通して、地域の人々との交流に努めている ○ 主任児童委員等と子育て支援やその他活動を通して、地域社会と連携している。
情報公開	C	○ HP 上に「情報公開」の項目を公開している。 ○ 園正面の掲示板に子育て支援を掲載し、地域の方々に伝えている。 ○ 行政に情報を提供し、入園情報などを周知している。

A. 十分達成されている B. 達成されている C. 組み込まれているが、成果が十分ではない
D. 組み込みが不十分である

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

B	○ 園の特色教育の充実に向け、自己点検、自己評価を実施、充実した実践が出来るように努力している。 ○ 感染症対策の一環として、密を避けすべての活動において間隔をあけて並ぶことに留意して活動を行った。 ○ 園が「子育て支援」の情報を発信していくことにより地域とのつながりや家庭との連携を深める。 ○ 基本的生活習慣の自立に向け、年齢に応じて指導を継続的に行っていこうと考えている。
---	--

A. 十分達成されている B. 達成されている C. 組み込まれているが、成果が十分ではない
D. 組み込みが不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園に対する保護	お迎えやお帰り、行事や懇談会を通して、保護者とのコミュニケーションを作る機

者の満足度の把握	会を増やすことにより、園に関する一定の評価を得ている。
子育て支援の充実	未就園児保育・園庭開放等子育て支援に加え、終了後も子育て相談を行い、適時アドバイスをする。 子育て支援の低年齢化が傾向としてみられ、より幅広い知識を身につけることに注力している。
心を育てる教育	仏教園ならではの特性を生かし 1、教師や友達のかかわりを通して、思いやりや自己肯定感を育てていく 2、ルールやマナーを守り、相手の立場に立って考える等規範意識を育てていく。 上記を踏まえ、運動会・発表会などの「行事」を通して、教師との関わりの中で自尊感情、自己有用感を育む。
教育・保育要領の改訂の方向性と整合性の確保	幼児期の終わりまで育ってほしい姿をアクティブラーニングの視点から保育内容を見直す為、職員研修の外部研修の機会を設け、またキャリアアップ研修の受講を増やすことにより、園内研修の充実、改訂の方向性を計り、職員の質向上を目指しているが、個人差が大きい部分もある。
インクルーシブ教育	増加傾向にある支援を要する子どもについては、インクルーシブ教育を目指すと共に、職員や行政の巡回相談やキンダーカウンセラーを活用し対応しているが、保護者との認識の差異がある場合がある。その場合、園児の特性に見合った体制を構築していくなかで、予算や職員配置についての理想と現実に悩むことも多々ある。
防災・防犯に対する意識の向上	880万人の訓練など、積極的に取り入れ毎月の防災、防犯避難訓練を通し、園児への防災教育は徹底してきた。防災計画等の周知を行い、積極的に情報発信を行い、意識の向上に努めていく。 また、園児には平常時から防災力の向上を図っていくため紙芝居を通して防災教育を図っている。